



創価大学

Discover your potential
自分力の発見



問題発見力

海外研修

6学部生を対象とした
学部横断型特別プログラム

Global Citizenship Program

語学力

問題解決力

進路

グローバル・シティズンシップ・プログラム
2022年度志望者向け案内

プログラム
受講料無料

海外研修
奨学金給付



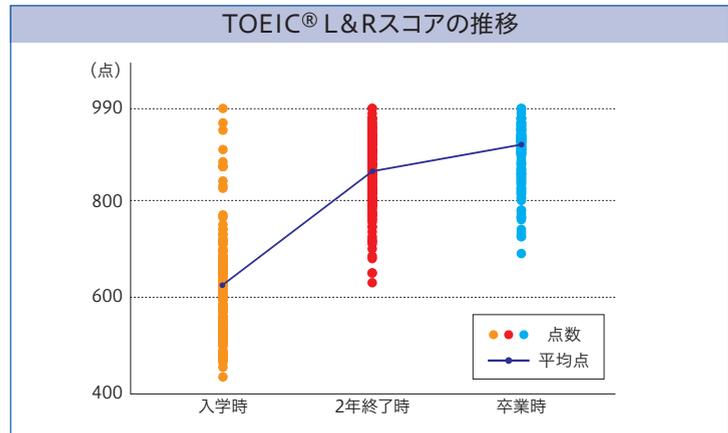
GCPの実績

世界に羽ばたくGCP生

GCPの一つの特徴は、日常の英語授業と海外短期研修を通して行われる、徹底した英語学習です。TOEIC® L&Rスコアで見ると、プログラム修了時には7割の学生が800点を超え、3割は900点に達しています。またGCPの英語学習は各種試験のスコア上昇だけでなく、どの学部の専門領域でも役立つ、高度で実践的な英語力を習得できる点も大きな特徴です。

その結果、多くの学生が交換留学までに英語圏で専門科目を学べる語学力を獲得し、人気の高い交換留学先への留学生に選抜されています。これまでに約8割のGCP生が長期留学を経験し、留学先も約30か国の国や地域に達しています。

さらにGCP生は、世界で行われる各種国際会議にも積極的に挑戦しています。国際会議の中には選考の際にも英文エッセイやインタビューなど高い基準を定めている会議もあり、GCPの学びを通して、英語圏の学生とも堂々“他流試合”ができる語学力や見識を身に付けています。

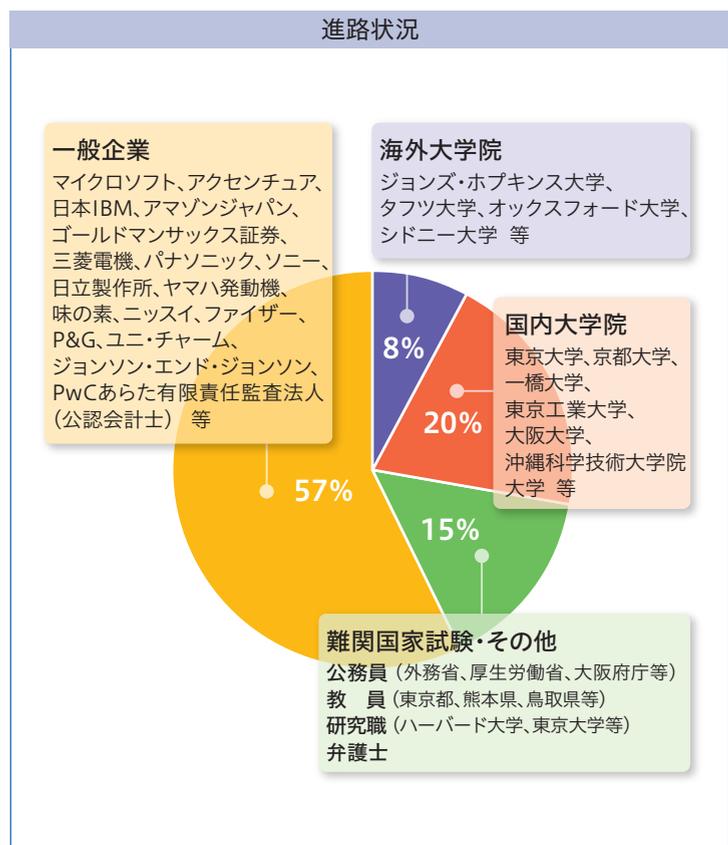


自分の夢を形に、社会で光る卒業生

GCPの成果は、卒業生の進路の多様性とレベルの高さにも表れています。多くの卒業生が海外・国内の難関大学院進学、業界トップレベルの企業就職、外務省専門職や国家公務員総合職など難関公務員試験、司法試験や公認会計士試験合格などを果たし、GCPで得た力を活かしてそれぞれの進路先で活躍しています。

卒業後、アメリカの大学院で医学博士号を取得し、ハーバード大学メディカルスクールで働く卒業生は、GCPで身に付けた英語力、プレゼンテーションスキル、研究者としての心構えが大学院で高く評価され、現在の進路を勝ち取ったとコメントしていました。

またGCP生にとっての大きなメリットは、これら多様な進路で活躍する卒業生との懇談・交流など、情報収集の場が豊富に用意されていることです。自分の夢を形にしようと模索する学生にとって、これ以上ない機会がGCPでは用意されています。



在學生・卒業生メッセージ



想像もできなかった自分に

在學生

岸 健太郎

経済学部 大阪府 私立・関西創価高等学校

私は大学生活を通して語学力、目標に向けたスキルを修得することを決意し、徹底して勉強に専念できる環境を求めてGCPを志望しました。GCPの2年間では、英語での授業や課題、さらには学部の授業との両立などで苦しい時も何度もありましたが、日々勉強に挑戦することで確実に学びが集積され、大きく成長することができました。諦めたり妥協したりしそうになった時、必死に学習に取り組む仲間の姿や、いつでも学習相談に乗ってくださったGCPの先輩や先生方の存在は、大きな支えになりました。現在は、カナダへの交換留学や海外大学院進学に向けて準備をしています。GCPでの思考力や情報収集能力、語学力の鍛錬のおかげで、入学前は想像もできなかった選択をでき、自身の可能性を切り開くことができました。



挑戦の土台をつくるGCPでの学び

在學生

家田 智美

法学部 愛知県 私立・中部大学春日丘高等学校

GCPの学びでは、単に英語力をつけるだけでなく自分の専門性も磨くことができます。私は高校生の時から難民問題に興味を持っていたため法学部へ進学し、平和研究や地球規模課題を学んでいます。このように自分の学部にも所属しながら、GCPの授業では6学部から集まった志高い学生と共に英語力、論理的思考力、数的処理能力を徹底して磨きます。授業だけでなく、世界を舞台に多様な分野で活躍される卒業生とのつながりもGCPの強みであり、先輩方との交流を通して日々の学びの目的についても深めることができます。また、机上の学びの成果を発揮するために学外での活発な活動をするGCP生も多くいます。私自身も先輩と交流する中で留学を志すようになり、GCPでの学びの成果もあって希望していたイスラム圏への交換留学も実現できました。留学中には現地学生と共に歴史やイスラム社会学を学び、世界的な平和課題への理解を深められました。



世界で活躍する実力が身につく!

卒業生

菅原 将

工学部 東京都 私立・開成高等学校
ベス イスラエル デコンネス医療センターハーバード大学医学部研修病院

GCPで英語を多角的に訓練できること、また幅広い問題解決力を身につけられることを知り、応募しました。工学部(当時)で専門性を磨きながら、GCPの授業を受ける中で、当初は全く話すことができなかった英語も飛躍的に伸ばすことができ、留学経験なしでもTOEFL-iBTで100点をこえることができました。さらに、プログラムゼミを通して、研究をするとはどういうことなのか、基礎から学ばせていただく機会も得られました。大学4年間の学びのおかげで、医療系研究では最高峰のジョンズ・ホプキンス大学免疫学博士課程に合格し、卒業後はハーバード大学の研究室に研究員として就職しました。GCPで鍛えた英語力、ライティング力、プレゼンテーション力はジョンズ・ホプキンス大学でも、ハーバード大学でも、高く評価していただいております。若いうちから力を身につけられたことに感謝しております。就職後の研究プロジェクトを、ドイツが主催するオンラインの国際学会に応募することもできました。受験生の皆様も、海外で活躍する実力を今から身につけるためにも、是非GCPに応募していただければと思います。

GCPの学び

英語力

GCPコーディネーター

勘坂 泉



GCPでは独自の集中英語講座で海外大学院留学レベルの英語力と、国内外のグローバル企業や国際機関に就職する際に求められる高度な英語コミュニケーション能力の修得を目指します。単に英語のスコアを伸ばすのではなく、国内外の社会問題や地球規模的な問題を英語で、探究的に学習し、将来どの領域に進んでも役に立つ英語力+思考力を磨きます。

徹底した4技能の特訓に加え、問題発見+解決+発信で総合的に英語を学びますので、英語圏で専門科目を学べるレベルに、日本にいながら到達することが可能です。国際経験豊かな教授陣によるカウンセリングと効率的な授業外学習指導により、さまざまなニーズに対応しています。英語を日本で仕上げ、非英語圏へ留学し、多言語習得を目指すことも可能です。



プログラムゼミ 世界に羽ばたく力を養う！

GCPコーディネーター

井田 旬一



プログラムゼミは、現代社会が直面するさまざまな課題について、アカデミックに要因を分析し、解決策を提案できる地球市民としての資質を養っていきます。セメスターごとに独自のゼミが設けられており、2年間で右図の様に4つのゼミを学びます。

特にゼミIVでは、それまでの学びを活かし、グループ毎に選択した地球的課題に対する解決策を提案します。例えば、あるグループは、「インドネシア・ジョグジャカルタの下痢罹患率が高い」という課題に対する解決策として、「現地の小学生を対象にした『リサイクル石鹸を使った手洗い教育プロジェクト』」を提案。実際に実施にまでこぎ着けました。日本・現地のNGOや企業、大学等さまざまなアクターを巻き込んで、8ヶ月にわたった準備は予期せぬトラブルや挫折の連続だったそうです。しかし、現地の小学生の衛生状況が、自分たちが一から作り上げたプロジェクトによって改善していく様子を目の当たりにした時に、「学生なりの方法で諦めずに目の前の地球的課題の解決に貢献する喜び」を強く感じたそうです。

他にも「ザンビア栄養啓発プロジェクト」を立ち上げ、ザンビアを支援する財団と共に、栄養に関する全5回分の授業教材作成と、現地の学校における栄養教育の体制づくりに取り組んだグループもあります。この様にプログラムゼミでは、具体的な取り組みを通し、より実践的な問題解決力や提案力を磨く授業となっています。

1年春学期 プログラムゼミⅠ キャリア&リーダーシップ

リーダーシップ力、ビジョンの形成力を磨く

チュートリアルと併せて
自身の最適なキャリア形成と進路を計画

1年秋学期 プログラムゼミⅡ ベーシック・リサーチ

リサーチ力、プレゼンテーション力を磨く

1年次2月に行う海外研修のなかで
フィールド調査を実施

2年春学期 プログラムゼミⅢ ポリシー・スタディーズ

問題発見力、「チームで働く力」を磨く

専門的な視点から
問題を構造的・総合的に把握し、分析

2年秋学期 プログラムゼミⅣ グローバル・イシューズ

問題解決力・提案力を磨く

2年次12月に公開成果報告会を開催し、
社会に対して提案



GCP海外研修

海外短期研修

実践的英語力とアカデミック・スキルを学ぶ

GCPでは、1年次終了時に2週間程度の海外短期研修を、旅費・研修費全額支給で実施します。例年、フィリピンのキャピトル大学、デ・ラ・サール大学、アジア開発銀行などを行き先として実施しています。

研修内容は1年次後期のプログラムゼミの授業と連動しています。プログラムゼミでは、研修先の経済・文化・保健などの社会問題に関する課題テーマをあらかじめ設定し、国内で事前に資料調査や検討を重ねます。その内容を踏まえて、研修では現地指導教員のサポートを受けながら企業や学校、病院などでフィールド・リサーチを行い、その結果を分析して、現実的視点に立脚した課題解決策をまとめ、研修先大学でその成果をプレゼンテーションします。

これらの活動を通して、高度なリサーチ・スキル、アカデミック・スキルだけでなく、実践的な英語コミュニケーション能力を身に付け、さらに異文化とふれあい、その多様さを尊重する重要性を学ぶことで、地球市民に求められる素養を磨きます。



留学・国際会議



高橋 知里

経済学部

愛知県 市立・菊里高等学校

留学先では、膨大な量のリーディングやエッセイ課題に取り組むための語学力や、授業内で高速に展開されるディスカッションを理解し、建設的な意見を発するのための瞬発力・自己表現力・コミュニケーション力が求められました。このような質の高いアウトプットが必要な場面で、GCPでの学びが大いに生きたと感じています。また、留学中に参加した国際会議では100カ国以上の青年と共に世界の課題について語り合い、より良い世界の未来に向けた展望を描くことができました。GCPの課題解決プロジェクトで学んだ「課題の本質を捉える力」「物事を複眼的に分析する力」「当事者の視点に立って考える力」によって、世界中の優秀な仲間と実りある議論を通して友情を築けたことは、生涯の宝の経験となりました。



大城 朝周

教育学部

大阪府 私立・関西創価高等学校

ドイツ・ライプツィヒ大学での交換留学では、GCPで鍛えた英語力やグループワーク力、プレゼンテーション能力を存分に発揮することができました。留学中には、教員の道を志す現地の学生と両国の教育事情についての議論を通して新しい視点を得ました。地元の中高一貫校を訪問した際には、日本とは異なる授業風景や、生徒・教職員の様子を直接見ることができ、自らの教育に対する考え方がより一層深まりました。英語だけでなく、ドイツ語の習得にも挑戦した6ヶ月間の留学は、GCPでの学びを土台に、自身の可能性をより大きく開くものだったと確信しています。



進路



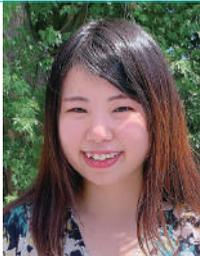
菅井 洋太

工学部 栃木県 県立・石橋高等学校
東京大学 大気海洋研究所 海洋生態系動態部門 微生物分野
日本学術振興会 特別研究員(PD)

「世界で誰も知らないことを解き明かす」ことができる自然科学の研究に魅力を感じたために研究職を志望し、学部卒業後は創価大学大学院に進学して博士(工学)の学位を取得しました。専門は海洋微生物生態学で、気候変動における海洋の微生物の役割について研究しています。日本の沿岸における日帰りの調査や、ときには大型研究船に乗船して行われる数カ月間の研究航海による外洋の調査を通して、海水中の微生物の活動や機能を調べています。

研究者には、調査や実験を行うだけでなく、過去の研究を調べて新規性・独創性の高い研究を提案したり、研究結果をまとめて社会に発表する能力が求められます。GCPの授業では、英語の読み書きはもちろんのこと、英語で文献調査やプレゼンテーションをする機会が多くあり、現在でも研究計画の立案、国内・海外の学術学会における研究発表、国際学術雑誌への論文投稿などに活かされていると強く実感しています。特に、論文執筆では、細かい英語の修正もなくそのまま雑誌に掲載されるほど、高い英語力を身に付けることができました。

私は今後も海洋微生物に関する研究を続けますが、いつか世界中に散らばったGCPの卒業生と海外で再会し、一緒に仕事をするような機会が訪れることを楽しみにしています。



立野 未奈子

法学部 東京都 私立・創価高等学校
外務省 在ボストン日本国総領事館

大学に行きたくても行けなかった人の分まで学び抜く大学生活にしようとの決意で入学後、GCPでは向学の心に燃える仲間たちと全力で勉強する毎日を送りました。GCPフィリピン研修では教育問題を研究し、経済的事情により公立小学校を退学せざるを得なくなってしまった男の子と出会ったことが、外交を通じて国際的な人権保障や地球規模課題の解決に貢献したいと考えるきっかけになりました。

外務省専門職員試験に合格すると40種類以上の言語から担当の言語が言い渡されますが、GCPで身につけた高い英語力のおかげで第一希望だったアメリカ英語担当として採用されることができました。

入省後は、日米貿易協定や地域的な包括的地域経済連携協定、政府開発援助の交換公文など、経済に関する国際法の作成及び締結や、即位の礼の際の首脳会談の準備等に携わりました。英語で読み書きする力、問題を論理的に整理し解決策を考えることなど、GCPで学んだことが仕事に大いに役に立っていると感じます。また現在は在外研修としてアメリカのタフツ大学フレッチャー法律外交大学院の国際法修士課程で、世界各国から集まった外交官や弁護士のクラスメイトたちと切磋琢磨しあいながら学んでいます。研修後はいよいよ外交官として大使館で勤務する予定ですが、いかなる困難な課題にも負けじ魂で挑戦し、民衆の幸福のために国際社会の平和・安定に貢献していく決意です。



永峰 正一

経営学部 大阪府 府立・高石高等学校
PwCコンサルティング合同会社

私は「世界を変えられる人材」になるため、まずはコンサルタントとしてキャリアを積み、その後、MBAが国際関係の分野で大学院進学を考えています。GCPの2年間では、社会人として必須な論理的思考力、数処理能力、知的体力等、社会で結果を出すために必要な力が鍛えられました。また、私がGCPを通して一番得たものは、困難に直面した時の人間としてのタフさです。プログラムは決して楽なものではありませんでしたが、自身の目標に向かって全力で挑戦する楽しさを知ることができました。入学時には想像もできなかった今の自分になれたのは、GCPで関わってくださった先輩方、教職員の方々のおかげだと思っています。今までお世話になった人たちに恩返しするためにもGCPで学んだ「困難に挑戦する勇気」を忘れずに、社会で実証を示していきます。

GCPの理念と目的、5大特徴



GCPコーディネーター

佐々木 諭

GCPは、創価大学ミッションステートメントで謳われている、智慧、勇氣、慈悲の3つの要件を有した地球市民(Global Citizenship)を育成することをプログラムの理念としています。具体的には、世界を志向し、世界の平和と人々の幸福を願う心—スピリット(Spirit/精神性)を持ち、世界が直面する問題の要因を分析し、解決策を提示する能力—スキル(Skill/技術・方法)を身につけ、決して自己の利益にとどまることなく、人々の幸福のために貢献する行動—サービス(Service/奉仕・貢献)ができる地球市民の輩出を目指しています。

そのために本プログラムでは、以下の5つの取り組みを通して皆さんの成長をサポートします。将来、国際社会(国際的企業、国際協力機関など)を舞台に活躍したい、海外大学院に進学したい、国家公務員や国内企業を目指したいなど、そのような強い志を持つ学生を全力で応援するプログラムです。

① 学部に所属したまま参加できる学部横断型プログラム

GCPは6学部(経済・経営・法・文・教育・理工学部)の学生を対象に選抜を行います。それぞれの学部に所属したまま、互いに学びに取り組むことで、広い視野と多様性が育まれることを期待しています。

② 徹底した英語教育と奨学金給付(返還不要)による全員参加の海外研修

高いレベルの集中英語講座とあわせ、GCP受講者全員に、海外研修費用として返還不要の奨学金が給付され、全員が海外短期研修に参加します。GCPの海外研修では、研修先の政治・経済・環境・教育に関する講義を英語で受け、現状と課題について理解を深めていきます。

③ 社会システムを読み解く力—数理能力をトレーニング

国際社会で活躍するためには、膨大かつ多種多様なデータを効率的に活用し、スピーディーに分析する能力が不可欠です。「社会システム・ソリューションI・II」では、社会の現状と問題を把握し、解決方法の考察と意思決定を行うために必要なデータ分析能力を修得します。

④ 独自ゼミでグローバルに活躍する人材を育成

Semesterごとにそれぞれ独自のゼミが設けられ、2年間で段階的に、リーダーシップ力、問題発見力、問題解決力を高めていきます。

⑤ 少人数制によるきめ細かい指導と「建学の精神」の深化

教員1人あたり5~10名の少人数体制を組んで、週に一度のチュートリアル授業や学生一人ひとりの学問分野や進路に合わせて、きめ細かい個別相談・指導等を通して、学生生活を全力でサポートしていきます。

入学から卒業まで

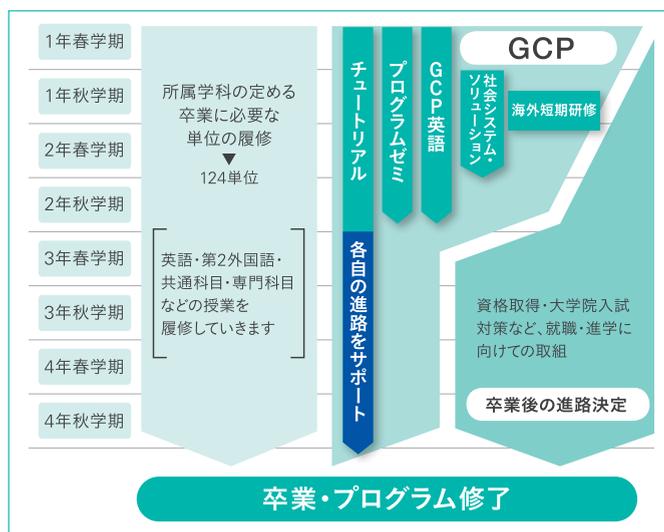
GCPでは、学生の所属する学部でそれぞれ定める卒業に必要な単位を修得しながら、並行して本プログラムの科目を履修します。プログラム修了に必要な単位(32単位)をすべて修得すると、卒業時に所属学部の学士に加えて、GCP修了が認定されます。

※卒業要件(履修科目、単位数)は学部により異なります。

※所属学部の定める卒業要件では、所定の単位の修得のほか、通算GPA(全科目の評定平均)が2.0以上であることが必要です。

※GCP科目の一部は、各学部で定める卒業要件の科目の単位数に充当することが可能です。

※一部のGCP科目は、GCP以外の科目と振り替えられる場合があります。



■教育職員免許状等の取得について

各学部を卒業することで与えられる資格(教育職員免許状等)を得るためには、各学部所定の単位を修得する必要があります。GCP科目と並行してこれらの科目を履修するため、場合によっては教育職員免許状等の取得に必要な単位修得に5年以上かかる場合があります。

GCP選抜要項

※変更の可能性がありますので、必ずGCPホームページの募集要項をご確認ください。

GCPの受講には、入試合格後に出席が必要で、在学中の全期間を通した一貫プログラムのため、入学時以外の途中からの受講はできません。

出席・募集について

- **対象学部**：経済・経営・法・文・教育・理工学部(国際教養・看護学部は応募できません)
- **対象入試**：PASCAL入試、公募推薦入試、指定校推薦入試、創価学園推薦入試、大学入学共通テスト利用入試(前期)3・4科目方式、全学統一入試:共通テスト利用可、一般入試2・3科目方式
- **募集期間**：入試ごとに異なります。以下の「選抜の流れ」ならびにGCPホームページの募集要項をご確認ください。
- **募集人員**：約30名(合格者が募集人員に満たない場合でも、追加募集は行いません)
- **受講費用**：無料(英語学習の一環として、TOEFL等の外部試験を自己負担で受験する場合があります)

※出席資格について不明な点がある場合は、事前にGCP事務室にお問い合わせください。

選抜の流れ

GCPでは出席者に対して選抜を実施します。選抜は以下の2段階で行います。

- ① **第1次選抜**：エントリーシート、入学試験の成績、入試出席時に提出された調査書に基づき、書類審査を行います。
入試合格者向けに開設される「入学支援システム」より、エントリーシート等の必要書類をオンラインで所定の期日までにご提出ください。提出締め切り日は入試ごとに異なります。募集要項ホームページで、ご自身の入試の締め切り日をご確認ください。エントリーシートは提出フォームの下書き段階で一時保存できますが、締め切り日までに必ずご提出ください。
第1次選抜の結果は、入学前の3月中旬ごろに、郵送で通知します。第1次選抜合格者には、第2次選抜のスケジュール等も送付します。
- ② **第2次選抜**：3月下旬ごろに小論文試験・面接試験・英語試験を行います。さらに入学前後に全新生入生に対して実施されるプレイスメントテスト(基礎学力判定テスト[数学・国語])・TOEIC® L&Rの結果も含めた総合評価により選抜し、出席者を決定し、4月上旬ごろ合否を通知します。

GCP募集要項

<https://www.soka.ac.jp/gcp/admission/info/>



Q & A

① 課外活動との両立はできますか？

多くの一般学生の授業は4時限(16時20分まで)で終了しますが、GCPの授業は、月曜日から金曜日までの5時限または6時限に行っています。さらに各授業の課題もあり、授業以外の多くの時間も学習に取り組むことが求められます。そのため、GCP授業のある1年次と2年次は、放課後のクラブや各種委員会などの課外活動には一切参加できません。

しかしながら、GCPの2年間で身に付けた実践的な英語力や論理的思考力、問題解決力などのアカデミック・スキルを活かし、多くのGCP生が夏休みなどの長期休暇や3年次以降に、様々な国際交流事業や国際会議などに日本代表として参加しています。学内でもSDGsの推進や将来のキャリアにつながる活動に積極的に挑戦しています。

② 選抜試験に向けた準備について

小論文試験では、社会課題などのテーマとそれに関する資料が与えられ、所定の時間内に自分の考えを明確かつ論理的に述べることが求められます。英語試験の中ではライティング試験が課されます。大学入試英語エッセイ問題、英検1級ライティング問題、TOEFLライティングセクションの出題形式を参考にしながら、英語パラグラフの構成を把握しておきましょう。面接試験ではGCPの志望動機、学修計画、これまでの経験と、ある1つの社会課題に関して意見が求められます。GCPの目指す人材像を把握し、自分の学びたい内容、キャリア計画をよく検討するとともに、国内外の諸問題について常に情報を収集し、周囲の人たちとの議論を通して、自分の意見を持つようにしましょう。

発行日:2021年10月29日

グローバル・シティズンシップ・プログラム事務室(総合学習支援オフィス学習支援課内)

ホームページ:<http://sgcp.soka.ac.jp> TEL:042-691-7009 FAX:042-691-6941 メールアドレス:sgcp@soka.ac.jp

お問い合わせ時間:月~金曜日 9:00~17:00/土曜日 9:00~12:00